



## ハチ高原の貴重植物を守ります ハチ高原の「ミツガシワ」自生地で保護活動を実施

2025年6月3日（火）に、兵庫県内ではわずかに残る自生地のひとつハチ高原のミツガシワ群生地にて「ミツガシワ」※1の保護活動を実施します。

この活動は、養父市（環境推進課・歴史文化財課）が主体となり、地元区やボランティアと連携し植生保護柵の再整備、ミツガシワの成長を妨げる雑草の除去を行います。

今年度採用の養父市新任職員（6名）及び養父市の幹部職員も保全活動に参加します。

※1 環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類（VU）絶滅の危険が増大している種（絶滅危惧種）とされており、兵庫県版レッドデータブックでは、希少性からAランクに位置づけられている。



ミツガシワ群生地（5月）



ミツガシワの株



作業の様子（昨年度）

ハチ高原（養父市丹戸）のミツガシワ群生地と呼ばれる湿地は、氷河期の生き残りと言われる植物「ミツガシワ」が自生しています。（兵庫県内では新温泉町とハチ高原のみ）

ミツガシワはミツガシワ科の多年草で湖沼や湿地などの水辺を好みます。ハチ高原は、雪が多く降り気温も低く、冷たい地下水があるなどの好条件が重なり氷河期の植物が生き残っていると考えられています。

これまでは但馬の貴重な植物を保護する活動を行うボランティア団体が主体となり、シカによる食害や踏み荒らしを防止する植生保護柵の設置や、水位の維持、雑草の除去などの保護活動をしてきました。

当面は、養父市（環境推進課・歴史文化財課）が主体となり、研究者らボランティアと連携し、ミツガシワの植生回復を目指し保護活動に取り組んでいく方針です。

（作業終了後はハチ高原の駐車場に移動し、地元の民宿に依頼した手作り弁当をみんなで食べます。）

### 記

実施予定日：2025年6月3日（火） ※雨天の場合6月10日（火）

作業行程：午前10時 ミツガシワ群生地で作業開始予定  
正午頃 作業終了

集合場所：プラトーこのはな（養父市丹戸909-1）駐車場（位置図を参照）

参集者：養父市（環境推進課・歴史文化財課・新任職員、幹部職員）、丹戸区、ボランティア等

### 【問合せ】

産業環境部 環境推進課 課長：田中正広 担当者：稲津義彦

電話 079-664-2033